

【これからの建設業界を担う若手経営者へのメッセージ】

「建設」の仕事に携わっておられる若手経営者の皆様、日々、それぞれの地域と国土をお支えいただき、そして、地域住民と国民の安寧ある暮らしの維持と保全にご貢献いただき、心から感謝申し上げます。思えば自衛隊なかりせば、有事の際に我が国国民を守ることが不能となり、私たちの国そのものが地上から殲滅せられてしまいかねぬ様に、建設の業なかりせば、大災害の有事の際に私たちの地域や国土を守る事も、そして破壊された地域や国土を回復せしめることも不能となり、人々が慣れ親しんだ“ふるさと”が、地上から永遠に消滅してしまうこととならざるを得ません。これから幾十年もの年月の間、我々日本国民のために、それぞれの地域社会を支え、国土を支え続ける業に引き続きご従事いただくことに改めて御礼申し上げ、当方からのメッセージとさせていただきたいと存じます。何卒、よろしく御願ひ申し上げます。

【学生へのメッセージ】

近代社会学の祖の一人エミール・デュルケームは、人はなぜ“自殺”をするのかを論究する不朽の名著「自殺論」の中で、重大な社会学的“真理”を見いだしています。それは「人間は、人に貢献できなくなればなる程に生きる気力をなくし、自殺に向かう」という事実です。つまり“自分探し”にふければふけるほどに、あるいは、我が事ばかり考え、あさましく「ビジネスライク」に私利私欲だけを追求すればするほどに、人間は、人間としての根源的な“生きる気力”を失っていくことが、社会学的に明らかにされたのです。その一方で、我が身のみならず、家族を思い、世間の人を慮り、故郷や国土の荒廃を憂いながら、我が身以上のなにがしかに貢献すればする程に、知らず知らずの内に生きる活力が沸き立つのが“ひとのこころ”のリアルな姿なのです。その活力は、あなたを豊かにし、あなたの周りの人々を豊かにし、そして、あなたの地域や故郷や国土を豊かにしていくことでしょう。そんな幸せな仕事は、年々減ってきているのが、世知辛いこの平成の御代ではありますが、そんな中でも“建設”という仕事は、間違いなく、我が身を越えたなにがしかに貢献する好機をあなたに与えるものです。是非一度、せせこましい我が事だけに拘泥する様な人生から抜け出し、“豊かな人生”を歩むためにも、ぜひ一度、“建設”の業に実を委ねる人生を考えてみてはいかがでしょうか。